

【科目情報】

授業コード	1FCB502010	科目ナンバリング	FCALAW83002-J1
授業科目名	中国法		
担当教員氏名	王 晨		
開講年度・学期	2022年度前期	曜日・時限	月曜5限
授業形態	講義		
単位数	2単位		

【シラバス情報】

授業概要	各回の授業形態をよく確認して受講してください。本講義は、現代中国私法の概説を行う。主に民法総則、物権法、契約法、人格権法、婚姻家庭法、相続法及び不法行為責任法を対象とする。社会主義市場経済に見合った中国私法体系の概要を理解させるとともに中国私法を見ることで法の世界の広がりを感じさせることを目指している。中国法の比較法的解釈にとどまらず、中国法と中国政治、中国社会という視点も取り入れて講義を進める予定である。
到達目標	中国私法の主要分野(所有、契約、不法行為、家族)について、基本的知識を得ると同時に、中国に固有の「法」の姿及びその特殊性のなかの普遍的価値を説明することができるようになることが、この授業の到達目標である。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	清末以降の近代法、中華人民共和国成立以来の法の歴史を概観する。現代中国法全体の見通しを得ることを目標としている。	指定された範囲を予習・復習しておくこと
第2回	民法総則(その一) 中国における民法典編纂に解説を行う。民法典の制定過程における論争も紹介する。	指定された範囲を予習・復習しておくこと
第3回	民法総則(その二) 民法総則における基本規定(基本原則、法の適用など)について、解説を行う。その際、『中国民法判例と学説研究 総則編』の判例も適宜に紹介する。	民法典総則編第1章について、予習・復習しておくこと
第4回	民法総則(その三) 民事主体(自然人、法人、非法人組織)について解説を行う。その際、『中国民法判例と学説研究 総則編』の判例も適宜に紹介する。	民法典総則編第2章-第4章について、予習・復習しておくこと
第5回	民法総則(その四) 民事権利、民事権利の客体について解説を行う。人身の権利、財産権のほか知的財産権も取り上げる。その際、『中国民法判例と学説研究 総則編』の判例も適宜に紹介する。	民法典総則編第5章について、予習・復習しておくこと
第6回	民法総則(その五) 民事法律行為・代理・時効の順に解説を行う。その際、『中国民法判例と学説研究 総則編』の判例も適宜に紹介する。	民法典総則編第6章-第7章、第9章について、予習・復習しておくこと

第7回	物権法(その一) 総則、所有権の順に解説を行う。その際、2020年の民法典物権編を題材にして、その内容、特徴について考察する。『中国民法判例と学説研究 物権編』の判例も適宜に取り上げる。	民法典物権編総則、所有権について、予習・復習しておくこと
第8回	物権法(その二) 用益物権、担保物権、占有の順に解説を行う。社会主義市場経済における用益物権の重要性を考察する。『中国民法判例と学説研究 物権編』の判例も適宜に取り上げる。	民法典物権編用益物権、担保物権及び占有について、予習・復習しておくこと
第9回	債権法(その一) 民法典契約編の解説を行う。社会主義市場経済にとって債権の重要性を指摘する。『中国民法判例と学説研究 債権編』の判例も適宜に紹介する。	民法典契約編について、予習・復習しておくこと
第10回	債権法(その二) 民法典不法行為責任編の解説を行う。その際、中国不法行為責任法の現代化は、一つの重要な視点になる。『中国民法判例と学説研究 債権編』の判例も適宜に紹介する。	民法典不法行為責任編について、予習・復習しておくこと
第11回	人格権法(その一) 民法典人格権編の総則を解説する。人格権編の適用範囲、一般人格権、死者の人格的利益、人格権の保護を項目にして取り上げる予定。その際、『中国民法判例と学説研究 債権編』の判例も適宜に紹介する。	民法典人格権編総則について、予習・復習しておくこと
第12回	人格権法(その二) 民法典人格権編の各則を解説する。生命権、身体権、健康権、氏名権、肖像権、名誉権、プライバシー権及び個人情報保護の項目にして取り上げる予定。その際、『中国民法判例と学説研究 債権編』の判例も適宜に紹介する。	民法典人格権編各則について、予習・復習しておくこと
第13回	婚姻家庭法(その一) 婚姻家庭法の基本原則、婚姻、夫婦関係という項目で解説を行う。その際、『中国民法判例と学説研究 親族相続編』の判例も適宜に取り上げる。	民法典婚姻家庭編第1章-第3章について、予習・復習しておくこと
第14回	婚姻家庭法(その二) 離婚、親子、扶養という項目で解説を行う。その際、『中国民法判例と学説研究 親族相続編』の判例も適宜に取り上げる。	民法典婚姻家庭編第4章-第5章について、予習・復習しておくこと
第15回	相続法 相続財産、法定相続、遺言相続、遺贈扶養取決め、特別縁故者制度という項目で解説を行う。その際、『中国民法判例と学説研究 親族・相続編』の判例も適宜に紹介する。	民法典相続編について、予習・復習しておくこと
第16回	期末試験	

事前・事後学習の内容	授業までに教科書指定箇所を予習し、授業後は、しっかり復習することは、大事である。参考文献や判例研究も、自主的に取り組んでほしい。
成績評価方法	以下の基準の通り、本授業の到達目標に対する到達度に即して、相対評価をする。期末試験 70%、授業における議論の参加状況 15%、レポート 15%。
履修上の注意	テキストの指定された範囲を予習して理解するとともに、学習内容を身につけるために復習しておくこと。なお、「中国民事法の判例から見た中国法のアイデンティティについて」というレポートの課題がある。前期の後半に出すことになっている。
教科書	教員が作成した中国法教材・資料を配布する予定。授業は、主にそれを沿って行う。
参考文献	参考書として、高見澤磨ほか著『現代中国法入門第 8 版』（有斐閣、2019 年）、小口彦太・田中信行著『現代中国法 第 2 版』（成文堂、2012年）、高見澤磨・鈴木賢編『要説中国法』（東京大学出版会、2017 年）を指定する。
その他	本校の法学雑誌の新刊に中国民法典に関する翻訳・解説(王)がある。参考にしてください。